

I 事業の概要（地域の実情含む）

1 地域や学校の被災や復興の状況

当学区は、大船渡市の中心部に位置し海岸より離れているものの、東日本大震災では学区内東部を流れる盛川が津波により逆流し、多くの被害をもたらした。学区内の盛駅付近を中心に、商店街や工業地帯、住宅街が浸水し、全壊、半壊の被害が出た。

震災直後、本校の体育館や校舎が避難所となったり、校庭に仮設住宅が建てられたりした。その後、仮設住宅が撤去され、平成28年11月に校庭が復旧するまで校庭が使用できず、6年間、運動会や陸上記録会の練習は、他校の校庭を借用して実施した。

当地域は、古くから政治・経済・文化の中心として栄えてきたところであり、地域の方々の復興への思いは強いものがある。その思いと地域の方々の協力により、商店街や住宅地は復旧しつつあり、地域の伝統行事も途切れることなく継続している。

2 児童の実態

校庭に仮設住宅が建っていたこともあり、児童の運動能力や体力面での低下、精神面での不安定、落ち着きのない行動がみられる時期があった。また、自己肯定感も低くなっている。

そこで、地域の企業である三陸鉄道の学習を通して、三陸鉄道の被害と職員の仕事に対する姿勢や、復興にかける思いを学ぶと共に、自分たちを育ててくれている郷土への愛着とそこに暮らす方々とのつながりを感じさせたい。また、この学習を通して、自分たちの暮らしている盛町に対する誇りをもたせていきたい。

II 取組の概要

1 ねらい

- 三陸鉄道に実際に乗り、鉄道の様子や海の様子を見ることで、地元の交通機関の良さを知り、海の美しさを実感させる。
- 三陸鉄道の被害の様子や、地域の住民のために復興を願い、尽力した社員の思いや取り組みを知り、自分たちの考え方を振り返るとともに、故郷への誇りをもたせる。

- 復興に向けての支援について学ぶことで、人とのつながりや優しさ等を学び、自分たちの行動を振り返るきっかけとする。

2 各学年の取組

(1) 1・2年生

1・2年生は、9月3日（火）に、三陸鉄道に乗って吉浜海岸まで出かけた。

盛駅から吉浜駅までの約50分間、列車の中でガイドさんのお話を聞いたり、車窓からきれいな海をながめたりした。

吉浜海岸では、「津波石」の大きさに驚き、海水の冷たさや波の動きに歓声を上げながら、海とふれあう楽しいひとときを過ごした。

〈感想〉

- みんなでおしても、びくともしなかったよ。
(一年)
- いちばんすごかったのは、さんてつです。いすやてえぶるがあつたし、といれもありました。(一年)
- 三鉄がトンネルに一りょうだけでもどったのがきせきだと思いました。(二年)
- 三りょうながされてしまったから、東日本大しんさいのおそろしさを知った気がしました。(二年)



(2) 3年生

3年生は、11月18日（月）三陸鉄道に乗って恋し浜駅まで行った。三鉄の中では被災状況や復興についてのお話を聞き、当時の写真と今の風景を見比べて学習した。

恋し浜では、ホタテテラスで、ホタテの養殖をしている佐々木淳さんからお話を聞き、津波によって大きな打撃を受けたホタテ養殖の復活までの様子や、海の仕事がたくさんの人たちに知ってもらうために様々な工夫をしていること

などを、お話していただいた。

〈感想〉

- ・震災の時は、地震が長く続いたそうです。たくさん家がたっていたところも、ほとんどなくなってしまったそうです。
- ・東日本大震災では、外国からもボランティアがきたことに、びっくりしました。震災前に大船渡の船に乗ったことがあって、心配してきてくれたそうです。



(3) 4年生

① 震災学習列車

4年生は、復興副読本で「三陸鉄道のたたかい」について学んだ。津波でずたずたになってしまった鉄道を、みんなのために1日でも早く復旧させようと努力している社員の頑張りを知った。

その学習をさらに深めるために、6月21日(金)に、盛駅から釜石駅まで震災学習列車に乗り、震災の様子やその後の復興への支援や取組について、実際にお話を聞いた。

〈感想〉

- ・三陸鉄道は、直すのに九十二億円もかかりました。大きな被害をうけてもあきらめないところがすごいと思いました。三陸鉄道リアス線に、人々の足としてがんばってほしいです。



② 日本製鉄釜石製鉄所

4年生は、釜石製鉄所で、東日本大震災による津波からの復旧とその取組、そして現在の仕事についてのお話を聞いた。地域に根ざした会社であることを、強く感じる事ができた。

〈感想〉

- ・たくさんの人たちにお風呂を提供したと聞いた。煙突から出ている煙を見て、釜石の人たちはどれだけ安心したのかなと思った。



(4) 5年生

5年生は、社会科で新聞社の仕事について学習した後、東日本大震災津波を乗り越えた東海新報社の備えと努力について学んだ。

一日も欠かすことなく新聞を作り続けることができたのはどうしてなのか、発行にかける思いや備えについて、11月1日(金)に、お話を聴いてきた。

〈感想〉

- ・震災の時に無料で新聞を配ったということに感動した。自分もそういう役に立つ人になりたいと思った。
- ・チリ地震津波の時、1週間新聞が発行できなかったことを教訓として、自家発電装置を平成21年9月に導入した。新聞で情報を得た人は、本当に安心だっただろう。



(5) 6年生

① 盛の七夕・お天王様・五年祭

6年生は、毎年PTA会長さん・副会長さんをお招きして、盛町の七夕祭りのお話を聞くことで復興について学習してきた。

今年は、さらに田茂山権現様保存会の佐々木

さんにもおいでいただき、学習した中からグループごとにテーマを決めて、地域に伝わる伝統行事や復興にかける思いについてまとめた。

〈感想：盛七夕〉

- ・震災の時には、山車も流された。でも、ボランティアの人たちのおかげで、震災のおきた年も開催できたと聞いた。この話を聞いて、何でも協力すればできるということ、みんなで協力することの大切さを学んだ。そして、今でもボランティアをしてくれている人がいることも分かった。



〈感想：五年祭 等〉

- ・田茂山権現では、「震災があってもがんばる姿を見せたい」という気持ちが、今も受けつがれているきっかけになっている。私たちも、五年祭・田茂山権現を引き継いでいかなければいけないのだと思った。
- ・盛の文化・歴史についてふれてみて、一つ一つの文化に意味があることが分かったので、これからも盛のお祭りを大切に生きていきたいと思った。



② 学習発表会

6年生は『よりよい将来の大船渡市の姿』について考えたことを劇で発表し、会場の皆さんに思いを伝えることができた。

～そのときのアナウンス～

「6年生は、総合的な学習の時間に『盛の文化・歴史再発見』というテーマで学習しました。ゲストティーチャーをお招きし、地域行事やまちの歴史、地域の伝統をつないでいくために、日々の努力を重ねている方々の思いについて学びました。その学びをもとに、自分たちのまちの未来について真剣に考えました。小学校生活最後の学習発表会。6年生20名のふるさと大船渡に対する思いを精一杯表現します。」



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- ・車窓から海の様子を眺めたり海岸を散策したりすることで、海的美しさ・自然の豊かさを実感することができた。
- ・列車の中で三陸鉄道の被害状況や復興への取組を学ぶことで、復興に向けて取り組んだ人たちの熱い思いや人と人とのつながりを感じ取ることができた。
- ・この学習を通して、自分たちの暮らしている地域に対する誇りや愛着を育てるよい機会となった。

2 課題

- ・今後も地域の企業や産業を支えている人たちから、復興や地域の伝統・将来に関わることについて学ぶ機会を設定したい。
- ・復興教育計画について毎年度見直しを行い、実態に即した学習を推進していく。

